

平成 29 年度大牟田市総合教育会議(第 1 回) 会議録

- ◆ 日 時 平成 29 年 9 月 29 日 (木) 16:00～17:05
- ◆ 場 所 大牟田市役所 3 階 302 会議室
- ◆ 出席者 中尾市長、安田教育長、山本委員、嶋田委員、本山委員、東委員
教育施策関係部署 (企画総務部) 井田部長、吉田調整監
(市民協働部) 中村部長、中島調整監
(教育委員会事務局) 大迫事務局長、井上事務局次長
教育みらい創造室 松葉主査、川崎指導主事
学校再編推進室 山口室長、学校教育課 平河課長
指導室 坂本室長、学務課 堺課長、中本給食担当課長
人権・同和教育課 新村課長
事務局 企画総務部総合政策課 猿渡課長、田中主幹、大峰主査、松田

◆ 議 事

[議題]

1. 教育環境の整備について

教育委員会事務局 (近年の教育環境の整備状況や効果について事務局より報告)

委員 学校訪問をすると、きちんと配慮された教室で少人数授業が行われている。普段使っていない部屋ではなく、きちんとした学びの環境が整えられた部屋にクラスを分けて授業を行っていただいている。今後、もっと効果が上がってくると思う。

市長 大牟田市では、少人数学級編成にかねてから力を入れて取り組んでいる。できるだけ小さい規模で学んでもらった方が、マンツーマンに近い環境が作りだせる。きちんとした環境が整えられているということで大変ありがたいと思っている。ぜひ今後も少人数学級については進めていきたい。

教育長 大牟田市の特色のひとつといえる。県から配置された教員を 35 人学級の担任にした場合には、本来の少人数の指導ができない。それを市の予算で配置することにより、この制度そのものが大きな効果になっているのが、大牟田の特徴。学校でもそういった環境を整え、より教育の充実を図っているという点では、よく趣旨を理解していただいている。市に対してもありがたいと思うし、学校も頑張っていると思う。

委員 今年度、電子黒板を配置していただき、ありがたいと思っている。以前あった簡易型の電子黒板はなかなか利用しづらかった。しかし、今回は、全

小学校に移動式の電子黒板を配置していただいた。学力の向上、先生方の負担軽減にもつながるといふことで、導入していただいてよかったですと感謝している。

市長 電子黒板については、先生方が教材をそろえるのも大変だと思う。今のIT化の流れの中では、先生方に操作を習熟していただくというのは難しい話なのかもしれないと思うが、今後を考えるとそういった方向は間違いないと思う。この分野については、私ももう少し力を入れられればという思いでいる。

委員 高取小で、先生たちが研修会をされたという新聞記事を見た。一生懸命勉強して活用しようとしている。

市長 こんなふうに活用しようというのを、先生方が体験されながら、共有されているのだと思う。先生方自身で勉強されて、いろんな活用の仕方をお互いに教え合い、さらに成果が出てくるというのは、大変素晴らしいことだと思う。

委員 去年から学校訪問させていただいて感じることは、先生方が、子どもたちの教育の充実に向けて、本当に一生懸命取り組んでおられて、非常に大変ということ。子どもたちも元気に授業にのぞんでいるが、夏の暑いとき、梅雨、湿度が高いとき、小学校では45分間、中学校では50分間、集中して取り組むのは大変だな、かわいそうだなと思っていた。先生方が日ごろから努力されていることが、よりよい環境で子どもたちに伝わってほしいなと感じていたが、エアコンを整備されているということで、大変ありがたいと思う。今年は暑かったが、学校に入ると非常にいい環境で子どもたちも集中していた。
あわせて、洋式トイレの問題。生活スタイルが洋式化し、正座ができない、和式トイレを使えない、そういった子どもがトイレを我慢しているという声も聞く。整備がだいたい50%ときいているが、洋式化にも取り組んでいただいているというのは、子どもたちにとってもいいことだと思う。

市長 エアコンは、昨年度と今年度で、小学校、中学校の整備が完了ということになったが、学校環境という視点でとらえると、まだ課題は様々にある。その中の一つがおっしゃっていただいたトイレの洋式化の問題。子どもたちたちが和式の便器を目にすることがなくなってきた、と報道で目にすることもある。そうすると、どうやって使うのかわからないということになるらしい。一方で、清潔感の問題から、やはり和式じゃないという声もあると聞いているので、全て洋式ということにはならないだろうが、今後、

洋式トイレの整備については進めていきたい。

委員 中学校の給食について、あたたかい給食を食べることができる、みんなと同じ食事をとることができる、というのは協調性を見出すいいきっかけになった。食事の量もしっかりあるし、子どもたちも満足しているようだ。保護者としても、お弁当の心配がなくなったという点でも非常に安心できる。センターの利用についても、保護者も地域の方も利用でき、学びもある。非常に感謝している。

[自由討議]

教育委員会事務局より、ユネスコスクール全国大会について紹介。
その後、市長、教育長、教育委員によるフリートーク。

市長 12月のユネスコスクール全国大会は、安田教育長が文科省に働きかけ、市政100周年ということから誘致してくれた。日本全国に対して、大牟田のESDの取組を発信していく。
ユネスコスクールの話にこだわらず、様々なご意見をいただければと思う。

委員 8月25日の子ども議会がとても印象に残った。子どもたちは、自分の学校での今までの学びをまとめて発表してくれた。それに対し、市長さんたちが本当に真剣に答えていただいたというのがとてもありがたかった。子どもたちは形式を求めてやったわけではない。自分たちで今まで勉強してきたことに対して返ってくる答えが本当に真剣なものであったから、それを学校に持ち帰って、次の課題にすることができる。
一つの例を言うと、白光中が、大牟田市の防災の取組みを教えてほしいという質問をしたときに、市長さんが「災害をなくすことは困難。減災が大事。」ということをおっしゃった。そこで、本当の会議だなと思った。子どもたちが、今後自分たちがどうしていったらいいか。これからずっと生活するまちについて考える、いいきっかけになった。子どもたちは、心の中でしっかり受け止めて学校に持ち帰ったと思う。
それから、傍聴していた小学生も一生懸命聞いていた。その子どもたちも、自分たちの年齢に合わせた勉強をしていて、しっかり伝わったと思う。とてもいい勉強になったし、いい機会を与えていただいたと思う。

市長 実は、準備には、指導室長たちが大変苦勞された。各学校でも、年度が明けてすぐくらいから、テーマの絞込みや意見の取りまとめという作業をしていただき、教育委員会では、同じ質問とならないよう調整をされた。先生方がいろんな意味でご苦勞されて準備してくださったので、今おっしゃったようなことに最終的につながったと思う。学校の先生方も、教育委員

会の方でも、一生懸命取り組んでくださったので、私どももきちんとそれを受け止めて真摯に対応するという事で取り組ませていただいた。そういう意図が伝わったようで大変嬉しい。

委員 子どもたちにとって、すごくいい経験になったと思う。

市長 マスコミの人からは毎年やってと言われたが、それはなかなかきびしい。

委員 子どもたちも熟成させる期間が要る。地道に積み重ねて、伝えるには時間がかかる。

委員 先日、市民の方からも、ESD 推進協議会が立ち上がった。それはやはり、市長が本部長である推進本部があるということ、それにより市民の機運が高まったのではないかと感じる。そういう機運が高まって出来上がった協議会が、これから少しずつ広がっていくことで、地域の方たちにも、自分たちがしていたことが ESD だったんだ、ということが伝わっていけば、さらに広がっていくのではないかと感じる。まずは、推進本部長になっていただいたことをありがたく思う。

学校訪問に伺って、小学校の子どもたちの生活アンケートの項目の中に、地域や社会をよくするために、何かできることがあると考えるか、とか、外国や他の地域のことを考えることがあるか、という質問があるが、大牟田では50%くらいがあると答えている。他県より10ポイントくらい高い。それはやはり ESD の学びがあるからではないかと感じる。課題を自分たちのこととして、広い視野で捉えるという ESD の学びがあるから、10ポイントも違うのかなと感じた。

ESD が始まったときは、ESD って何なのという言葉だったが、今では、学校の中で ESD が当たり前存在していて、保護者の方たちも ESD が当たり前になってきたと思う。これからは、みらい創造室のみなさんがもっと地域にも発信していかれると思うので、大牟田全体で ESD が当たり前になる日が近いのではないかと楽しみにしている。

市長 今でこそ、自分たちのまちを再評価しよう、という輪がだんだん出来つつあるが、今までそういう風潮がなかった。いいところはいいということできちんと評価する。子どもたちの自己肯定感が少ないと聞いたりするが、よく考えたら、自分たちが自分たちのまちに対して肯定感を持っているか。そういうことが欠けているのではないかと感じたりもする。学校教育の中で、そういうことに気付いてもらう。これがずっと続いていって、地域も知らず知らずのうちに巻き込まれていって、自分たちの地域がいい地域になってきたと気付く。そうしたことはとても大事なことだと思う。

- 委員 みんなが大牟田を誇りに思う気持ちが膨らんでいくのではないかと思います。
- 市長 ESD 推進協議会も、教職員の経験者の方々が中心となって立ち上げられたが、そうしたところから広がっていくことは大切なことではないかと思う。退職された先生方は、学校をよくしたいということから、環境面の整備などでお手伝いしてもらってきた。それが今回に繋がったのではないか。とても素晴らしい組織。おそらく、よその退職小中学校は親睦会に近く、大牟田市のようなことは珍しいのではないか。そういう面では非常にありがたいし、大切にしていけないといけない。
- 委員 市全体が ESD を応援しているとなったら、市民の人たちも自分たちもできることがあるのではないかと入りやすくなる。市民だけがしていたらなかなかここまでいかない。やはり大牟田市のおかげだと思う。
- 市長 ESD といってもなかなか分からない。そういったことから、みらい創造室にもどんどん発信してもらっている。
- 委員 昨年 10 月、東大海洋教育アライアンスセンターとの締結されたということで、海の ESD ということでかなり期待しているが、まだあまり見えない。
- 市長 海に面しているといいながら、海が身近という意識は、子どもたちにあまりないと思う。歴史的な経過からみても、海岸線を企業さんがお持ちになっていて、市民からはなかなか近寄りたがたいものだった。今の子どもたちは、三池港海水浴場で遊んだりということもやってらっしゃらない。身近に感じてもらえないのは残念。
海に親しんでもらうということを、きちんとした形で行政が考えるとなると非常に大変なことでもある。ただ、陸以上に、海について関心を持ってもらうのは子どもたちにとって大事なことだと思う。海のことについて東大でも研究されていて、そういったことを幾分かこちらにも分けていただき、先生方とシェアしていただいて、先生方を通じて新しい知見や海の面白さが子どもたちに伝わるといいのではないかと思います。
- 委員 子どもたちは、2 月に東大で発表会に参加し、素晴らしい経験をしている。すごいなと思う。
- 市長 最近の子どもたちは、本当にたいしたものと思う。
- 教育長 説明だけならある程度覚えればいいが、質問の時間がある。東大だけではなく、他の大学の先生や一般の方も来られていて質問される。そのときに、それまでの経験や自分の考えから答えなくてはならない。手前味噌ではな

いが、本当に見事に答えていて、私もびっくりした。世界遺産のことやいろいろなことを質問されたが、的確に答えていた。

委員 大牟田の子どもたちはすごい経験をしているということ。

市長 そんなふうに、さまざまな面で、大牟田の教育はうまく展開できていると私自身は思っているが、外に向かって発信するということが非常に難しい。学力調査で常にトップとかになると目を向けてもらったりするが、学力の面だけではなくて、社会にどれだけ目を向けているかということも含めて全体として底上げがなされているということをアピールしたい。そういうところは、一方通行的な形ではなかなか伝わりにくい。

委員 ESD の素晴らしさを大牟田市がわかってくださっているんだと思う。そこをもっとアピールできれば。

市長 いろんな事業をやっているが、ESD の観点から見たらこんな意味があるということ意識するかしらないか。それを意識して、ESD を再定義することではないかと思う。全ての部が関連することであり、それぞれの事業を展開する中で意識しながらやるということ、職員一人ひとりに理解してほしいという。そういったことから、私が本部長となって推進本部を立ち上げた。毎日の事業展開の中では、なかなかそういうことまで意識が届いてないと思うので、たまに呼び覚ましたりしながら根付かせていくということが必要なのだろうと思う。

委員 今大牟田で学んでいる子どもたちは10年、20年経ったときに、自分たちがこのまちを守ってきた、これからつなげていきたいと思ってくれる大人になると思う。
去年この会議のときに、よかったら出前授業に行つて欲しいとお願いして、行っていただいた。お忙しいと思うが、またぜひお願いしたい。

市長 出前授業は非常に難しい。30分くらいの説明だが、だいたい伸びてしまう。

委員 子どもたちも決まりきった説明より嬉しいと思う。ぜひ授業参観に行かせていただきたい。

以上(17:05)終了